

福祉はチームプレイ。 利用者ひとりひとりに寄り添えるのが魅力

調布市社会福祉協議会「希望の家 深大寺」
富永麻友さん／勤務歴5年

「福祉のしごととは人対人の仕事なので確かな『正解』がない。それが難しいところでもあり、おもしろさでもある」と語るのは富永さん。日常的に介助が必要な知的障がいのある方の日中活動を支援する「希望の家 深大寺」で働いています。富永さんは大学の「社会福祉コース」で福祉を学び、卒業後、調布市社会福祉協議会に就職。相談等支援を行う障害者支援係を経て、昨年4月からこの施設に配属されました。

施設では、ウォーキングや体操などの健康維持活動や、音楽活動や外出などの教養娯楽活動に加えて、古紙回収や企業からの受注作業の支援を行います。また、施設開放の「地域のつどい」やあくろすでの展示会、バルコでの販売会などの地域交流イベントも行っています。利用者は個性的で、日によって趣

味や好み、ブームなどが変わることがあります。昨日は楽しんでいたことを今日は嫌がるということもあつて、日々困惑したり、悩むことも多いそうです。そんな時はスタッフ



富永麻友さん。オフ時間は一緒に住む姪や甥と遊んだり、お菓子作りを楽しんでいます

7同士で情報を共有し、助け合い、話し合い、チームプレイで対応しています。また、利用者のご家族との情報共有も大切で、連携にも努めています。そんな苦労も、利用者の笑顔や嬉しそうなきげに触れると消えるといいます。

「福祉のしごとはきつい、たいへんはほかの仕事でも同じはず。それ以上に利用者の大切な人生に寄り添い、一緒に考え、喜ぶ時間が持てることは貴重。気づいたらこちらが笑顔や元気をもらっていることが多々あります」と富永さんはこのしごとの魅力を語ってくれました。



利用者本人やご家族の笑顔が見られると「この仕事をやってよかったと思います」と富永さん

特集① スタッフが語る 福祉のしごとで わくわわ〜く!

福祉のしごとってどんな仕事？ 魅力は？
今回は市内5つの事業所で働く
スタッフ5名の「しごとっぷり」取材してきました!

ここにこの会 放課後等デイサービス「ふくふく」
大畑拓人さん／勤務歴8年



「びいす」の外田さんと。福祉の世界で、公私ともに話せる仲間に出会えたことが嬉しいといいます

利用者の成長を振り返ると 感動するんごがあります

大畑さんは布田駅近くにある放課後等デイサービス「ふくふく」で働いています。障がいのある主に中学生から高校生が利用する施設で、平日の午後は調理、制作、室内外でのレクリエーションや遊び、買い物学習などを提供。土曜日は一日活動として、ボウリングやカラオケに行ったり、年に数度、遠足等の外出活動を行うなど、余暇を広げる

活動をしています。大畑さんは高校時代に福祉をテーマにした小説を読んだ感銘。大学で福祉を学び、福祉系のボランティアやアル



利用者から人気の大畑さん

バイト、実習などを経て一直線で福祉の道へ。現在の役職は「ふくふく」の管理者兼児童発達支援管理責任者。子どもと遊ぶだけでなく、保護者面談をしたり、個々の発達経過を記録し、子どもたちが発達課題に応じた支援が受けられるように、個別支援計画なども作成します。心掛けていたのは、「〇〇が楽しめるようになった。〇〇ができた」という、利用者の生活がプラスになるような支援。何をやるにもまずは子どもや保護者との関係性が構築できることが大切といい、そういう支援ができたときに充実感が味わ

えるといいます。また、この特集で紹介する樹田一樹さん、次頁の常田翔太さんとは大の仲良し。市内の福祉の研修会で知り合い、年齢が近いこともあって意気投合。仕事終わりによく飲むそう。「バカ話していてもすぐ福祉の話になります。調布の福祉は、連絡会や研修会、広報誌「わくわ〜く」の発行などで、施設や作業所を越えてスタッフがつながっているのすごいところ。連携して調布の福祉を盛り上げたい」と語ってくれました。

大切にしていることは 自分の価値観で推しはからないんご

「カフェ大好き」は京王多摩川駅前にある地元で人気のカフェ。ここは「調布を耕す会」が運営しています。店長を務めるのは福祉の世界に入った25年の「ゴツチさん」と、後藤朋子さん。ふたりの子どもを持つお母さんです。「人と接するのが好き」とこの業界に入り、約13年間店長を務めています。

この店はカフェとギャラリー、福祉ショップの機能があり、11名の通所メンバーが交代で働いています。メンバーによってできることはさまざま。接客が得意な人、苦手な人がいて、「仕事にメンバーを合わせるのではなく、メンバーにしごを合わせる」そう。ひとりで包丁を

持ち、調理する人もいます。休憩室には「売上目標月50万円」の張り紙も。みんなで目標に向かって働き、達成すると金一封がもらえるそう。

店には5歳と2歳の後藤さんの子どもがよく訪れ、メンバーから名前前で呼ばれて、かわいがられています。びよんびよん飛び跳ねるメンバーの横でよくいっしょに飛び跳ねて遊んでいます。彼らにとってはメンバーが側にいるのが日常です。「幼い時から多様性のある環境に居られることがありがたい」と後藤さんは語ります。



2児のママの後藤さん。カフェ大好きでは手前のクッキーのほか、カレー、ジェラードが人気です

調布を耕す会「カフェ大好き」
後藤朋子さん／勤務歴25年

長い付き合いのメンバー。仲がいいです! (左から2番目が後藤さん)